会　議　録

１　会議名

平成３０年度第２回三郷区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

（１）平成３０年度地域活動支援事業について（公開）

３　開催日時

平成３０年５月３１日（木）午後６時００分から午後９時２３分まで

４　開催場所

三郷地区公民館　集会室

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、佐藤　功、二野　浩、保坂真由美、山田宏文、横尾彰平

・事務局：南部まちづくりセンター　佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

８　発言の内容（要旨）

【小林主任】

・１２名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第８条第１項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：二野委員、保坂真由美委員に依頼

次第２「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

　事務局の説明について質疑を求めるがなし。

―次第３議題（１）平成３０年度地域活動支援事業について―

【山口会長】

　次第３議題（１）「平成３０年度地域活動支援事業について」に入る。

　今年度の提案事業全てについて、提案者の事業説明と質疑応答のあと審査、採点をし、事業の採択、補助金額等の決定を行う。

　正副会長は審査、採点に加わるため、事務局に会の進行を求めることを諮り、委員全員の了承を得る。

【佐藤センター長】

・提案件数…１１件　助成希望額計５０１万円、予算配分額比１１万円分超過

・１事業につき、事業説明５分以内、質疑応答５分以内、基本審査１分間、優先採択審査と共通審査（採点）２分間

　今の説明について質疑を求めるがなし。

　審査、採点を始める。

　整理№.１「桜町町内安全対策事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

　事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

　提案者の説明について質疑を求める。

【山口会長】

　現場を調査した結果、早めにしなくてはいけないと感じている。採択されたら早めに設置してほしい。

【竹内副会長】

　私も現地の確認をしたが、非常に見通しが悪い。

　カーブミラーの設置場所は歩道上か。

【提案者】

　そのとおり。桜の木の右側に作ろうと思っている。市市民安全課と協議した結果、乗り入れの坂があるため、その付近が適しているということで、そこにしようと思ってい

る。

【竹内副会長】

官地の、公道、歩道の中か。

【提案者】

そのとおり。

【二野委員】

市、近隣地権者との事前協議は済んでいるのか。

【提案者】

済んでいる。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

— 提案者退席 —

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.1「桜町町内安全対策事業」の採点を終了。

次に、整理№.2「みんなで、この地に住みたいまちづくり事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【尾崎委員】

結婚適齢期を迎える世帯が20戸あるとのことだが、小学生以下の子どもは何人いるか。

【提案者】

中学生以下で22名。就学前の子どもは5名。

【尾崎委員】

次年度以降の見通しとして、安全に配慮して遊具の整備・管理を行うとある。今まで

も管理を行っていたと思うが、町内会で行うのか、どこかに委託をして行うのか。また、積雪の問題がある。雪が降った場合、収納テックやシートがあるようだが、具体的にどのようなことを行うのか。

【提案者】

町内にはそれぞれ評議員がおり、集落開発センターを管理する役員に月１回点検をお願いする。業者への委託はしない。遊具の保護は、据え付けのものについてはシートの幌を掛けて保護し、屋内に持ち込めるものはしまう予定。

【池内委員】

板倉区との境に川があり、この川の近くまでは来ないと思うが、５、６年前に熊が出た。子ども達を誘導する際、安全対策はどのように考えているか。子どもだけでなく、お年寄りもいる。

【提案者】

町内会、保護者、子ども会が中心になって実施するため、子どもだけでするということは考えてない。

【竹内副会長】

現地も見た。遊具設置の平面図等が添付されていないため、どういった配置にするか分からないが、現位置にブランコ、鉄棒、滑り台を設置する考えでよいか。

【提案者】

今あるブランコの位置に、滑り台を置く予定。

【竹内副会長】

安全領域、セーフティーエリアが決まっているため、十分考慮していただきたい。ぶつかる可能性があるので。桜の木等もあるため、距離をしっかり離して設置をお願いしたい。

【提案者】

了解した。

【山口会長】

現場を見たが、古くなっていると感じた。その他に、隣接する私道にU字管のようなものが伏せてあるが、子どもが遊ぶとなると、安全ロープや鎖の設置などを皆さんでよく検討し、もし来年度も募集があれば事業提案してもらえばよい。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

―　提案者退席　―

・基本審査を委員に依頼

―　基本審査票　記入・回収・集計　―

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

―　採点シート　記入・回収・集計　―

整理№.２「みんなで、この地に住みたいまちづくり事業」の採点を終了。

次に、整理№.３「三郷地区の歴史・史跡を研究する事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【竹内副会長】

地中探査の関係だが、今年は掘削など考えているか。

【提案者】

掘削はしない。

【尾崎委員】

参加者というか会員７５名、それぞれ負担金等あれば、いくらぐらいか。

【提案者】

負担金は提案書には載せていないが、国府サミットへの参加者から。今までは１泊で２万円くらいかかっているが、今年は日帰りのためほとんど取らないつもりでいる。今年は富山と近いため、日帰りができる。

【尾崎委員】

参加費は取らないのか。

【提案者】

そのとおり。ただ、食事などは実費。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

―　提案者退席　―

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.３「三郷地区の歴史・史跡を研究する事業」の採点を終了。

次に、整理№.４「三郷地区大運動会事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【加藤委員】

保険は別会計か。

【提案者】

この事業は小学校と一緒に実施しており、小学校の方の運動会にかかる部分で保険料は支出されている。事業提案には保険は含まれていない。

【池内委員】

事業の対象者は三郷地区の住民約６００人とある。平成２７年４月現在の構成人数が１,３００人だが、なぜこのように人数が違うのか。

【提案者】

６００人というのは、おおよその延べ参加人数。三郷地区全ての方が参加されるかどうかは、皆さんの都合もある。

【池内委員】

では１,３００人というのは三郷の全人口ということか。

【提案者】

そのとおり。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

— 提案者退席 —

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.４「三郷地区大運動会事業」の採点を終了。

次に、整理№.５「いきいき健康ウォーク事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【横尾委員】

最近登山は、今までしていたところが中止するケースが非常に多い。事故があると指導者やリーダーが訴えられるケースがあるため、高校等でも登山は中止するところが多い。今の子どもは過保護で、むしろ危険を感じさせないといけないのだが。登山をしたらどういった危険があるかよく分かっておらず、道の端は草に隠れてすぐ下が絶壁になっているのに、お構いなしに歩いている子が非常に多い。相当の覚悟をしていると思うが、十分に注意して。例えば参加者が子どもの場合、何歳までは父兄同伴でなくてはいけないなど、制限を設けないとかなり危険が伴うと思う。特に米山登山はかなりきつい。そのため、相当の準備をしていかないと。今回が初めてだろう。私は２回ほど登っているが、相当危険なところもある。十分に注意してもらいたい。

【提案者】

ガイド４名からしっかり指導してもらい、参加する大人も子どもの数程度はいるため、十分気を付けたい。この事業が中止にならないように心掛けたい。

【尾崎委員】

春の野尻湖散策について、午後から弁天島に渡るとのことだが、弁天島に渡る費用が入っていないが。

【提案者】

渡る経費に関しては、体育振興会の財源から捻出する。団体割引等も受け、大人が９００円程度、子どもが３００円程度かかるが、自主財源で対応する。

【保坂副会長】

春の方は６月上旬に町内会周知とあるが、既に５月下旬にもらい、回覧板で回した。たくさんの人たちが楽しめるコース。運動会の準備もあったりして大変だったのだろうと思うが、たくさんの人たちを呼ぶのであれば、来年はもう少し早めに案内をしてもら

うと予定も付くと思うため、お願いする。

【提案者】

改善する。

【二野委員】

米山登山について、天候によっては中止、順延か。そういったところはどうなっているのか。

【提案者】

ベテランのガイドと相談し、天候による中止も有り得ると考えている。安全第一で、中止の判断をガイドと相談して決定したい。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

— 提案者退席 —

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.５「いきいき健康ウォーク事業」の採点を終了。

次に、整理№.６「三郷の熱い夏をみんなで楽しもう事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【保坂副会長】

提案書に書かれた日にちの確認だが、土曜日は８月１８日ではないか。

【提案者】

誤りであるので、訂正したい。

【保坂副会長】

前日が１７日で、実施の日が１８日。

【提案者】

そのとおり。

【尾崎委員】

今まで近隣の商店の駐車場を使っていたが、商店との話し合いは済んでいるのか。

【提案者】

例年借りており、事前に伺って許可を得ている。

【尾崎委員】

今回も許可を得ているのか。

【提案者】

今回はまだ得ていないが、採択結果を受けて、改めて伺ってお願いしたいと考えている。

【伊藤委員】

のぼりの製作とあるが、どういったものを考えているのか。

【提案者】

桃太郎旗を考えている。それを会場周辺に、学校のグラウンドのフェンスに縛り付けてもらう。それと各町内に巡回バスを巡らせる予定だが、バスの停まる場所の目印に使いたいと考えている。そのため本数を多めに予定した。内容等についてはこれから検討しながら、目立つ旗を作りたい。

【佐藤委員】

遠方の方のバスについて、昨年もバスはあった。一昨年から始めたようだが、実施された後に聞いたし、私も乗った経験があるが、ほとんどいない状態。今ほど、町内会長と連携を密にして、という話もあったが、その点も充実して。せっかくのイベントであるため、一人でも多くの方を。バスの時間が合わない方も中にはいるため、その辺を詰め、一人でも多く参加できるような体制を取ってもらいたい。

【提案者】

承知した。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

―　提案者退席　―

・基本審査を委員に依頼

―　基本審査票　記入・回収・集計　―

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.６「三郷の熱い夏をみんなで楽しもう事業」の採点を終了。

次に、整理№.７「藪野町内会災害対策事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【尾崎委員】

昨年は笛吹の里と連携したとのことだが、今年はそういった予定はないか。

また、団体の設立が平成１９年の７月、実際は２１年からで、直近の収支はほとんどないとのことだが、ポリタンクを１０個ほど購入したとのことであり、収支はどのようになっているのか。

あと、事業の目的は避難誘導をスムーズに行うとのことだが、誰が誰を避難誘導するかなど、その辺はきちんとできているのか。また、避難する場所は藪野町内であればどこを想定しているのか。

【提案者】

家屋倒壊で骨折した人が１人、それから車椅子でないと動けない人を想定し、まず頑丈な建物のある笛吹の里に避難誘導するということで。藪野町内のほとんど全員の方に集まってもらい、対応・処置をして、笛吹の里に集まった。笛吹の里は、自分たちの場所の安全確認、利用者の安否を確認し、全体で簡単な避難の仕方、ベッドからの移動や車椅子の使用の仕方といったことを皆さんと一緒に学んだ。

【尾崎委員】

今年もそのような予定か。

【提案者】

今年もそういった話は立ち上がっているが、今回機材を購入した場合、これだけを中心にうちの町内だけでするか、合同でするかというのは、まだはっきり決まっていない。笛吹の里では、また今年もしたいとの案が出ている。

【尾崎委員】

メンテナンスを含めて自主的に立ち上げ、笛吹の里とは別のような形と受け取ったが、今の話を聞くと、それもまだはっきりと決まっていないのか。

【提案者】

話が出ているというだけで、うちの町内でやるかやらないか、今年の話はまだ決まっていない。今回この案が通り、町内でこれを使えるかどうかが大前提にあるため、それから話を進めていかないと、一度にこれをみんなで使うといった話ではうまくいかないと思う。ある程度住民でした方がよいと思っている。

【山口会長】

採択されたら、これを有効活用するよう町内の皆さんと話し合う計画はあるのか。

【提案者】

ある。

【保坂副会長】

町内会長は笛吹の里の職員でもあるため、合同訓練をしようという話が出ているのは聞こえているが、私たち一般の人には聞こえていない。そういった意味で話をされたのだと思う。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

— 提案者退席 —

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№.７「藪野町内会災害対策事業」の採点を終了。

次に、整理№.８「さんごう仲間づくり事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【山口会長】

事業内容と実施方法について、雑巾プロジェクトと新聞発行は、説明を受けてさらにまたよいと思った。特に新聞発行については、三郷まちづくり振興会で各団体のカレンダー等を今計画しているところである。実施の段階になれば、横の連絡を取りながら実

施してほしい。そういったところと今後も連携を取りながら活動してほしい。

【提案者】

ぜひお願いしたい。

【尾崎委員】

料理講座がオーレンプラザでなければいけない理由はあるのか。

【提案者】

三郷地区公民館の調理室が狭いため、スタッフを入れると募集人数が５人くらいになる。できれば２０人くらいの参加がほしいと考えている。これまでも２０人弱来てもらっているため、広いところでということ。去年まではワークパル上越を利用していたが遠いため、オーレンプラザを使ってみたいと思った。

【尾崎委員】

コンサートだが、出演者の佐藤ひらり氏は、インターネットにはアメリカでも活動されたと書いてある。出演料は交通費込みで２０万円ということで、事前に当たられたと思うが、この程度でしてもらえる方なのか。

【提案者】

そのとおり。

【尾崎委員】

どうせやるなら、もっと違うところで大々的にやってもらう方がよいと思う。全盲のシンガーソングライターで、アメリカでも賞を取られ、その道では有名な方だと思う。提案書にはそこまで書いていないため、知らない人が多いと思った。どうせやるなら違う形でやってもらえないかと、質問に希望を含めて話した。

【提案者】

私の希望はもっと小振りで、音楽室でやりたいと思った。ピアノを子ども達が囲み、本当に近くで聞けるとよいと思ったが、学校の事情もあり音楽室は無理となった。体育館だとピアノをステージから降ろすのが難しいため、ピアノではなく、もしかしたら楽器を持って来られるかもしれないが、その近くにみんなが寄れるようにできたらよいと伝えた。ただ、基本的にはスピーカーを持ってきてマイクを使うのがひらり氏のスタンスと聞いているため、これから詰めていきたい。ホールコンサート的ではなく、もう少し身近なコンサートを考えている。

【保坂真由美委員】

オーレンプラザに行ったことはあるか。

【提案者】

　使ったことはない。

【保坂真由美委員】

　実際に行ってきた。ワークパル上越は靴のままできるが、オーレンプラザは必ずスリッパに履き替えとなる。少し広いが、調理の場所、幅は公民館と一緒。２０人は一応入れる。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

　―　提案者退席　―

・基本審査を委員に依頼

　―　基本審査票　記入・回収・集計　―

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

　―　採点シート　記入・回収・集計　―

　整理№.８「さんごう仲間づくり事業」の採点を終了。

　次に、整理№.９「さんごう夏っ子クラブ事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

　事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

　提案者の説明について質疑を求めるがなし。

・質疑応答を終了

　―　提案者退席　―

・基本審査を委員に依頼

　―　基本審査票　記入・回収・集計　―

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

　―　採点シート　記入・回収・集計　―

　整理№.９「さんごう夏っ子クラブ事業」の採点を終了。

　次に、整理№.１０「三郷地区健康増進事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

　事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【尾崎委員】

血圧計本体は妥当だが、台は以前使っていたものがあったと思うが、使えないのか。

【提案者】

台は傾いて使えない。丸椅子は下の方が錆びている。これは使えないと思い、今回提案の中に入れた。

【尾崎委員】

以前使っていたものは撤去するということか。

【提案者】

撤去することを前提に考えている。

【尾崎委員】

結果を印刷する紙が消耗費として出てくると思うが、それは町内会のお金で出るのか。また、機械ものであるためメンテナンスも必要。

【提案者】

三郷まちづくり振興会で管理をしていく。予算が若干あるため、そちらの方で対応していきたい。耐用年数が過ぎて傷んでしまったらどうするかは、その時点でまちづくり振興会の中で協議して決めたい。細かい話だが、血圧を測った結果が印刷されるロール紙などは、まちづくり振興会の事業費の中から出す。

【池内委員】

まちづくり振興会を作り、活動を始められた。これは非常によいことであるため、少し長期的に、体重計なども。最近テレビで見たが、糖尿病などが簡単に分かるようになってきている。世の中が進んできている。そのうち認知症も簡単に分かるようになるのでは。そういったものも長期的に揃えていくようにしたらよい。

【提案者】

会の中で事業を実施した後に総括をして、いろいろな反省点を踏まえながら次年度以降も継続して進めていきたい。

【池内委員】

是非お願いしたい。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

— 提案者退席 —

・基本審査を委員に依頼

— 基本審査票 記入・回収・集計 —

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

— 採点シート 記入・回収・集計 —

整理№．１０「三郷地区健康増進事業」の採点を終了。

次に、整理№．１１「下四ツ屋町内会安全・安心事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【尾崎委員】

１７世帯６３人の非常保存食ということ。水は別として、保存食は３種類だが、量的にはどのような見積りをしたか。あと、おかゆ、パン、白いご飯もあるようだが、どのような基準で選ばれたのか。

【提案者】

大きな災害が発生した時を想定し、丸１日分、３食分くらいは自前で確保しなければならないといろいろな防災資料に書いてある。災害が起きると鍋に水を入れて温めることができないかもしれないため、何もしなくても食べられるパンや、温めなくても食べられる五目ごはんや白がゆを選んだ。白がゆはお年寄りや子ども用。また、ビニール袋に米と水を入れ、しっかり空気を抜き、熱湯で２０分間茹でて、さらに２０分間蒸らすとご飯が炊きあがる。自主防災組織でその袋を用意しているため、なべセットを使ってやりたい。農家が多いため、白米は各家庭にそれぞれある。提案するのは、災害が起きてすぐ、火が使えないような時に対応できるものを選定した。

【池内委員】

提案者はまちづくり振興会の会長でもある。これは下四ツ屋だけでなく、まちづくり振興会でした方がよいのではないか。

【提案者】

三郷小学校の中に防災の毛布や食料品などをある程度揃えているが、三郷地区の人が

どっと来たら全部対応するのは無理。確かにそうだと思うが。

【池内委員】

今後更新があり、水が５年、パンは何年か分からないが、そういったことはまちづくり振興会できちんとした方がよい。

【提案者】

私１人でどうこうできる話ではないため、地域協議会委員から話があったということで、話す機会があれば振興会の中で相談させてもらう。

【保坂副会長】

市市民安全課で、３分の１を町内で負担し、３分の２は補助してこういったものが買えるという制度があるが、下四ツ屋はその制度を使ったか。

【提案者】

一切使っていない。それももう１、２年でなくなるようだ。市の方針として、平成３０年度くらいまでとのこと。その制度は３分の２補助で、３分の１は自前であるため、こちらで助成をお願いしたい。

【佐藤センター長】

・質疑応答を終了

― 提案者退席 ―

・基本審査を委員に依頼

― 基本審査票 記入・回収・集計 ―

・基本審査の結果、適合すると判断した委員が過半数であることを報告

・優先採択審査、共通審査を委員に依頼

― 採点シート 記入・回収・集計 ―

整理№.１１「下四ツ屋町内会安全・安心事業」の採点を終了。

― １０分休憩 ―

【佐藤センター長】

審査採点結果を説明。

・基本審査で「適合しない」が過半数となった事業なし

・優先採択審査で「該当しない」が過半数となった事業なし

・共通審査の委員採点で得点が多い順に順位づけ（満点３００点）

１位　整理№.１０　三郷地区健康増進事業　２６７点

２位　整理№.１１　下四ツ屋町内会安全・安心事業　２５６点

３位　整理№.２　「みんなで、この地に住みたいまちづくり」事業　２５１点

４位　整理№.１　桜町町内安全対策事業　２４８点

４位　整理№.４　三郷地区大運動会事業　２４８点

４位　整理№.７　藪野町内会災害対策事業　２４８点

７位　整理№.３　三郷地区の歴史・史跡を研究する事業　２４０点

８位　整理№.６　三郷の熱い夏をみんなで楽しもう事業　２２９点

９位　整理№.５　いきいき健康ウォーク事業　２０７点

９位　整理№.８　さんごう仲間づくり事業　２０７点

９位　整理№.９　さんごう夏っ子クラブ事業　２０７点

審査採点結果に基づき、山口会長に採択審査の進行を求める。

【山口会長】

採択事業の検討を始めたい。結果を元に採択事業と補助金額を決める。１１万円オーバーしているが、どうするか。

私から１つ提案がある。先般正副会長で事前協議をした時に、ちょうど予算額に収まるよう、全ての事業に同じ割合を掛けて算出した額を減額し採択するという方法はどうかと協議した。

事務局に補足説明を求める。

【小林主任】

三郷区の予算配分額４９０万円に対し、助成希望額が合計で５０１万円になっている。これを三郷の予算配分額に収めるためには、全ての事業に対して９７．８パーセントの減額率を掛けて計算する。計算後は端数が出るが、端数を四捨五入すると４９０万２千円となる。それぞれの事業について、整理№.順に読み上げる。

整理№.１　桜町町内安全対策事業

助成希望額１０万８千円、減額後１０万６千円

整理№.２　「みんなで、この地に住みたいまちづくり」事業

助成希望額１８３万６千円、減額後１７９万６千円

整理№.３　三郷地区の歴史・史跡を研究する事業

助成希望額４２万５千円、減額後４１万６千円

整理№.４　三郷地区大運動会事業

助成希望額２６万４千円、減額後２５万８千円

整理№.５　いきいき健康ウォーク事業

助成希望額２３万８千円、減額後２３万３千円

整理№.６　三郷の熱い夏をみんなで楽しもう事業

助成希望額９９万円、減額後９６万８千円

整理№.７　藪野町内会災害対策事業

助成希望額２９万円、減額後２８万４千円

整理№.８　さんごう仲間づくり事業

助成希望額３７万７千円、減額後３６万９千円

整理№.９　さんごう夏っ子クラブ事業

助成希望額１８万６千円、減額後１８万２千円

整理№.１０　三郷地区健康増進事業

助成希望額１９万４千円、減額後１９万円

整理№.１１　下四ツ屋町内会安全・安心事業

助成希望額１０万２千円、減額後１０万円

ただし、超過する２千円について、どのように減額するか検討が必要。

【山口会長】

提案された減額率を掛けると、四捨五入の関係で２千円オーバーする。これをどうするか。他の方法をとるか、端数切り捨てにするか。端数を切り捨てにするとどうなるか。

【小林主任】

端数を切り捨てにすると、整理№.１、２、３、５、７、８、９、１０、１１の事業について減額後の助成希望額から千円ずつ引かれ、７千円余る。

【山口会長】

それは仕方ないか。４９０万円から１円もオーバーできないため、収めないといけない。端数を切り捨てにすると、予算内に収まるが余る。それを２次募集するかどうかもある。さりとて、他のところから２千円取るとなると、それも厳しい。公平の論理からすると、そういったことになるかと思う。

委員に質疑を求める。

【尾崎委員】

四捨五入ではなく、五捨六入では。

【小林主任】

五捨六入でも同じ結果。減額率を掛けた後、百の位が５になる事業がない。

【池内委員】

金額の一番大きいところから２千円引けばよい。

【尾崎委員】

せっかく順位を付けているのだから、９位に３事業あるため、２千円をその３つで割る。そこだけで調整したらどうか。

【山口会長】

助成希望額が少ないところばかりが９位になっているため、果たしてどうかと思う。池内委員のとおり、大きいところから、というのが１番手っ取り早い。

【尾崎委員】

理由付けが出来ない。

【山口会長】

そのとおり。そのため、７千円余るが端数で切り捨てした方がよい。

【尾崎委員】

１万円に収まる。

【山口会長】

三郷区の補助金額の下限額は１万円。

減額方法について採決することを諮り、委員全員の了承を得る。

採決の結果、池内委員案に賛成が０名、尾崎委員案に賛成が０名、端数切り捨てに賛成が１１名となる。

【横尾委員】

どこかで千円ずつ負担すれば、それで終わりだろう。うちの団体で千円負担する。７千円余るというが、全事業で減額になっている。せっかくもらえるのに、返すことになる。

【山口会長】

先ほどの四捨五入だと、２千円超過することになる。それを、いずれかの団体が私のところで負担すると言ってくれるならよい。横尾委員の団体で２千円負担するという案もある。

【横尾委員】

うちだけで負わなくても、どこかで千円負担してくれればそれでよい。

【山口会長】

委員の中では、整理№.１と３の関係者がいるが、他の方は帰った。事務局の方でどうするかということになる。

【横尾委員】

７千円返せば、尚更足りなくなる。

【山口会長】

採決した結果、端数切り捨てが１１名となったが、違う意見が出ている。横尾委員、正式に提案願う。

【横尾委員】

私もよく分からないが、７千円返すということは尚更減額になるということだろう。

【山口会長】

余るということか。

【池内委員】

各団体が皆マイナスになるということ。横尾委員の団体で２千円負担してもらえばよい。

【横尾委員】

委員の中に説明者がいるため、そこで千円ずつ負担してもらう。帰ったら説得する。私と山田委員で千円ずつ持てばよい。

【山口会長】

断っておくが、慣例ではない。来年度もこうなると困るため、白紙の状態としたい。

横尾委員の意見について、他の委員に意見を求める。

【池内委員】

去年はこの方法ではなく、全部比例配分した。去年はこうした、今年はこうした、でよいのではないか。来年は違う方法で。

【横尾委員】

前回は比例配分ではない。

【池内委員】

比例配分ではない。順位で決めた。何と言うのか。

【山口会長】

基本審査。

１次募集の方法と追加募集の方法を混同している。１次募集の時には、全て採択しても余った。追加募集では、基本審査で「適合しない」とした委員がいた事業から減額し

た。昨年は１次募集と追加募集の２回審査を行っている。それを勘違いしないでほしい。

【保坂真由美委員】

その前は、順位だった。

【山口会長】

１次募集は、そう。

【尾崎委員】

採択方針について散々協議し、今年もそうすると決めた。それが根本にある。それを崩して、という気持ちも分からなくもないが、あれだけ皆さんで議論してそのような方向になった。それを今回限り、白紙に戻すとなると、あれは何だったのか。

【横尾委員】

そうなっていたか。

【池内委員】

去年はそのような話だった。

【横尾委員】

では、それにのっとるしかない。

【保坂真由美委員】

そうすると、下位３事業か。

【山口会長】

そのとおり。

【池内委員】

去年はそのような話。点数が低いのだから。

【山口会長】

どうするか。

【池内委員】

私は、決めたことであるためこれでよいと思う。去年そう決めた。

【山口会長】

では、尾崎委員のとおり順位の低い９位の事業から、ということでよいか。事務局に確認を求める。

【小林主任】

昨年、一昨年の審査について、一昨年は１次募集の段階で予算配分額を超えていたため、基本審査の結果を基に、「適合しない」とした人数の割合で減額した。昨年は、先ほ

どの山口会長のとおり、１次募集では予算配分額に収まり、２次募集では予算配分額を越えたため基本審査の結果を基に減額した。

平成２９年度の審査方法について検討した際に、平成２８年度は基本審査の結果を基に減額をしたことから、同じ方法を取ることについて採決し、基本審査の結果を基に減額することに決まった。ただ、平成３０年度の審査方法については同じような採決はされていないため、平成２８年度と同様とすることは地域協議会で決定していない。

また、先ほど尾崎委員が提案された、端数を四捨五入した後の超過分２千円を順位が下位の３つの事業からそれぞれ減額するという案だが、補助金額は千円単位になり、２千円を千円単位で３つに割ることはできないため、この方法は取れない。

【山口会長】

事務局の説明を踏まえ、減額方法について委員に意見を求める。

横尾委員提案の方法はどうか。

【横尾委員】

それは取り消す。そういった決めがあった。

【山口会長】

端数切り捨てになると７千円余るが、１万円以下になるため２次募集はできない。説明が付きやすいとなれば、切り捨てだと思う。先ほど全員賛成され、横尾委員が提案を取り消した。

端数切り捨てでよいか改めて採決し、賛成１１名となったことから、全ての事業を採択し、補助金額は、全ての事業に同じ割合を掛け算出した額を減額し、端数を切り捨てた額とすることに決する。

【小林主任】

・決定した補助額を説明

整理№.１　桜町町内安全対策事業　補助額１０万５千円

整理№.２　「みんなで、この地に住みたいまちづくり」事業　補助額１７９万５千円

整理№.３　三郷地区の歴史・史跡を研究する事業　補助額４１万５千円

整理№.４　三郷地区大運動会事業　補助額２５万８千円

整理№.５　いきいき健康ウォーク事業　補助額２３万２千円

整理№.６　三郷の熱い夏をみんなで楽しもう事業　補助額９６万８千円

整理№.７　藪野町内会災害対策事業　補助額２８万３千円

整理№.８　さんごう仲間づくり事業　補助額３６万８千円

整理№.９　さんごう夏っ子クラブ事業　補助額１８万１千円

整理№.１０　三郷地区健康増進事業　補助額１８万９千円

整理№.１１　下四ツ屋町内会安全・安心事業　補助額９万９千円

合計４８９万３千円、予算配分額から７千円余る。

【山口会長】

７千円の残額については、補助金額の下限が１万円であるため追加募集はできないことを確認し、委員全員の了承を得る。

【山口会長】

提案者への附帯意見を求める。

【竹内副会長】

整理№.２の西松野木町内会の事業について、非常に狭いエリアの中での設置になるため、安全領域を確実に確保しながら遊具を使用する子ども達の安全を確保してほしい。それを附帯意見として付けてほしい。

【山口会長】

整理№.２「みんなで、この地に住みたいまちづくり」事業について、竹内副会長の提案のとおり安全の確保という附帯意見を付けることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

―次第５　事務連絡―

【山口会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

・第３回地域協議会　７月１０日（火）午後６時３０分　三郷地区公民館

・地域活動支援事業は採択結果を受け、速やかに補助金交付決定を行う

・当日配布資料

主要事業・プロジェクトの概要

まちづくり市民大学公開講座の案内

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言。

９　問合せ先

　自治・市民環境部　自治・地域振興課　南部まちづくりセンター

TEL：０２５-５２２-８８３１

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

　別添の会議資料もあわせて御覧ください。